

教育の基礎的理解に関する科目等
「教育と ICT 活用」

「教育と ICT 活用」の授業報告

数学教育・河村泰之

1. 授業の基本情報・概要

本講義「教育と ICT 活用」は教員養成課程 1 年生を主な対象とした新設科目である。令和 3 年の中央教育審議会答申の提言を踏まえ、教職課程認定基準が改正され、今年度（令和 4 年度）の入学生から「情報通信技術を活用した教育の理論及び方法」を含む授業が必修となり、本学部では 1 年生の必修の 1 単位科目として第 3 Q と第 4 Q に開設された。

受講生は教育学部から 1 年生 165 名と旧科目の代替として 4 名、加えて、法文学部（夜間）の 3 回生 1 名の計 170 名であった。大人数のため、まず学生を半分に分け、第 3 Q と第 4 Q に振り分け、各 Q の中でさらに 3 グループに分けた。

第 1 回のガイダンスと第 8 回のまとめを除く残りの 6 回を 3 名の教員（大西、河村、玉井）が各グループの 2 回ずつを担当する変則的な開講形態となっている。本報告では、この内、執筆者の担当する 2 回分について報告する。シラバスに示す内容では、表 1 の 6. と 7. に相当する。今年度の主な内容は、フォトポエムという写真と言葉を合わせる作品を制作する活動を通して ICT を活用した教育について学ぶことである。今年度は、ゲストティーチャーとして現職教員を招き、実際の現場の内容を伝えてもらった。

表 1 シラバスに示されている内容

1.	ガイダンス, ICT の活用の意義と理論
2.	ICT 機器の基本的操作と指導法
3.	オンライン授業とシステムの使用法
4.	ICT を活用した校務の推進
5.	教育データを活用した指導と学習評価
6.	ICT を活用した教科の指導
7.	各教科において横断的に育成する ICT 活用指導力
8.	まとめ, 外部機関との連携, ICT 環境整備

2. 授業評価・授業研究の内容

初めての開講であるので、シラバスの修正が必要なくらい大きな問題がないか確認し、特になければ、今後のための改善点を見つけていくことが目的である。講義中に行った振り返りアンケートから、この 2 回の講義で学生が何を学びだとして捉えていたか確認することで、評価とする。

振り返りアンケートは表 2 に示すように、選択式の 4 問と記述式の 1 問で構成されている。選択式は「そう思う」、「少しそう思う」、「あまりそう思わない」、「そう思わない」の 4 つから 1 つ選ばせた。回答数は 113 で回答率は 66.5% であった。表 3 と図 1 に示すように、どの項目も「そう思う」が 7 割を超え学生の満足度は高いと言える。（ただし、項目（2）～（4）では無回答があったため合計 112 となっている。）

表 2 振り返りアンケートの質問項目

【選択式】	
(1)	フォトポエムの授業は楽しかった。
(2)	写真と言葉の効果的な組み合わせかたが分かった。
(3)	主体的に授業に参加することができた。
(4)	授業で学んだことを今後に生かすことができる。
【記述式】	
(5)	フォトポエムの授業を振り返って、学んだこと・考えたこと・思ったことを書きましょう。

表 3 選択式項目 (1)～(4) の回答

	(1)	(2)	(3)	(4)
そう思う	106	79	87	100
少しそう思う	7	32	24	12
あまりそう思わない	0	1	1	0
そう思わない	0	0	0	0
合計	113	112	112	112

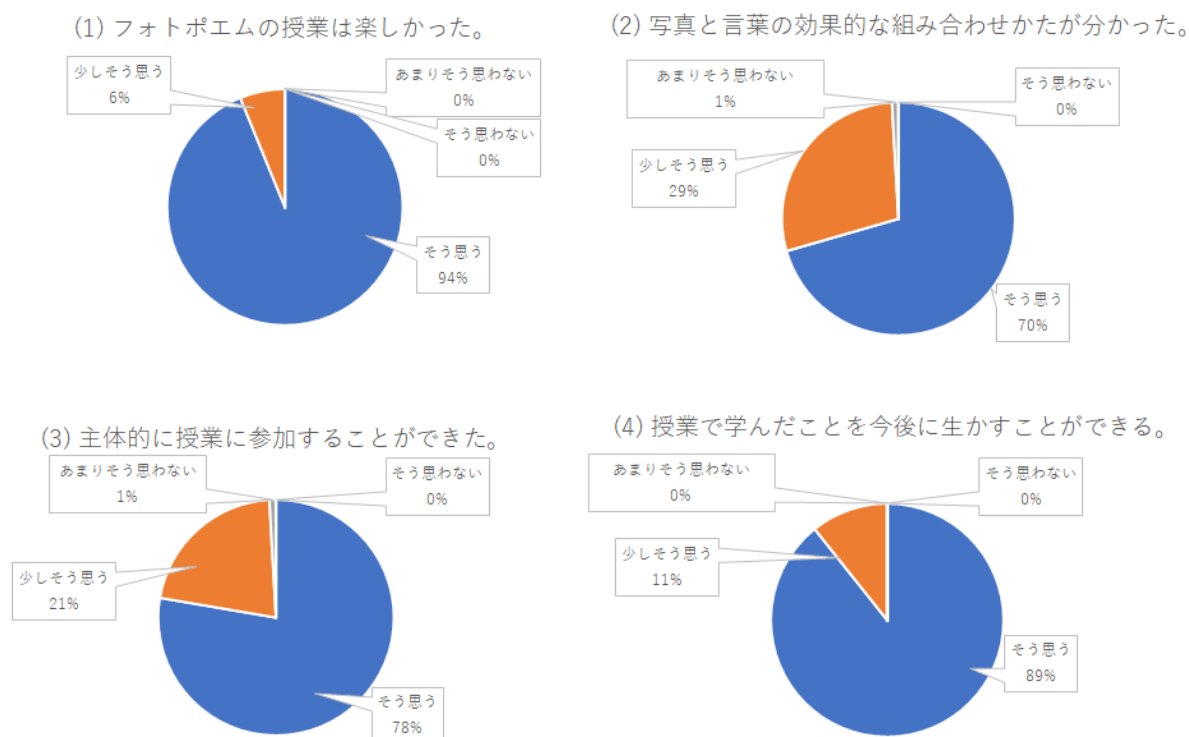


図1 選択式項目(1)～(4)の回答別割合



図2 記述式項目(5)の回答のワードクラウド

記述式(5)で多かったコメントは、表現や活動を通して、子どもが授業中に考える気持ちを体験できたことが良かったということである。また、鑑賞活動に関するコメントも多かった。すべてのコメントを記載することはできないので、図2にワードクラウドを示す。回答数は113で総文字数は約17,500。

全文を形態素解析ツール MeCab によって形態素に分解し、その中から必然的に頻度が多くなる語「フォト」、「ポエム」、「写真」、「詩」と、単独では意味のない語を除き、Python のライブラリ WordCloud によって作成した。

講義内容から自然に現れる「鑑賞」、「表

現」、「制作」、「活動」、「児童(生徒)」、「教員(教師)」、「授業」の他には、「自分」、「自己」や「個性」などの内面に関する語が多くみられる。その他には、授業に作り方に関するコメントに多く出現した「視点」や「きっかけ」などの語も目立つ。

自分たちが制作する活動を通して、子どもや授業など教育を意識していることがわかる。

3. まとめ

ICTを使う授業では使い方などのガイダンスが多くなる傾向にあるが、この講義ではそのような説明はほとんどせず、制作・鑑賞活動に時間を取ったことで、学生はICTの使い方ではなく、ICTを使った活動と教育とを関連付けることができたのだろうと考えられる。初年度としては、成功と言っていいだろう。

注意しておきたいこととして、選択式回答に現れた学生の高い満足度は現職のグェスティーチャーの影響は大きいので、その分は差し引いて考える必要がある。

最後に、本講義の内容は「6. ICTを活用した教科の指導」と「7. 各教科において横断的に育成するICT活用指導力」であるにも関わらず、学生の振り返りアンケートの記述からは、教科に関しては国語について見られたのみであった。学生に講義の意図があまり伝わっていないようである。次年度は、ポエムだからと言って学生が短絡的に国語だけに目を向けないよう講義中の説明を改善する必要がある。